2023. 06 VOGUE (BTS RM)

すべての瞬間、本気であるRM

美しさを称える喜び、低くところで学ぼうとする情熱、安逸さを退けるようとする意志、それが青春でありRMだ。

書面インタビューの回答はインタビューが楽な状態で書いたりします。 今どの時間帯、どの空間にいますか？ 顔を上げると何が見えますか？このような書面インタビューは携帯電話で使いたくなかったので、作業室に来てパソコンをつけるまで待ちました。今は土曜日の午後10時30分で、運動と作業後に作業室の椅子に座っています。顔を上げるといつもかかっているユン･ヒョングン先生の絵と各種作業装備が見えます。私の手垢がついた一番馴染みのある物が多いです。**韓国家具博物館で＜ヴォーグ＞のカバー撮影を一緒にします。 RMは単純に「素敵な姿を撮影する」を越えて画報撮影一つにも確固たる主観がありそうです。今回の＜ヴォーグ＞カバー作業で達成したい目標、もしくは願いは何ですか？**個人カバーは初めてで、＜ヴォーグ＞のカバーなので負担が大きいです。そうですね。単純に外見や雰囲気がかっこいいというよりは、情緒や精神が一緒に収められる写真だったらいいなと思います。私より見た目が素敵な方は多いですからね。そしてボッテガヴェネタと共にするだけに、彼らの感度や哲学が一緒にほのかに映れば良いという願いです。**アーティストは一人で創作と表現の領域に耐えていますが、今回の画報撮影のように多くのスタッフと一緒にすることも多いです（二つはほぼ一緒になると思いますね）一つの結果物のために複数の人と作業する時に固守する原則はありますか？**最近とても多様で新しい人々と共にしています。以前は一人で引っ張って行ったり、少ない人数と仕事をする経験だけだったなので、この機会に新鮮な刺激とインスピレーションをたくさん受けていますが、原則を立てているところです。ただ、私の話が盛り込まれるなら、どこでも私のクリエイティブを守らなければならないと信じています。そのためには人生を多角的に眺め、充実してぎっしり毎日のページを埋めなければならないと思います。生き方に忠実で遊ぶことにも充実してこそ、作業と創作もうまくできるでしょう。創作も結局一つの職業に過ぎないということを忘れないようにしてます。**ボッテガベネタのクリエイティブディレクターマティユ･ブラジとインスタグラムでお互いに向けたコメントを交わしました。マティユはRMのボッテガベネタキャンペーン写真を載せながら「家族」になったことを歓迎し、あなたも一員になって嬉しいという文を載せました。今年2月、ミラノで開かれたボッテガ･ヴェネタの2023 F/Wコレクションにも参加しました。オールブラックルックがブランドイメージと符合しながらもRMらしかったです。これまで音楽と美術に対するあなたの情熱は如実に表れましたが、ファッションに対する考えを分かるのは容易ではありませんでした。あなたにとってファッションとはどのような意味ですか？**いつか「ファッションは思想だ」と言われてとても印象的でした。誇張されたと思いながらも、一見うなずかせる部分がありました。常にファッションを一種の態度や姿勢に近いと考えてきました。服を脱いで歩くことはできませんから。他人に強要することなく、優雅に自らを表現できる翼でもあります。しかし、最近はあまり多くの意味を与えないようにしています。たまにはそういう考えが私を食いつぶしているようで、(笑)。しかし、私はまだファッションを愛し、大切にしています。私のファッション会社もずっと変わってきたんですよ。ストリートからゴシック、アメリカンカジュアルへ、またミニマルにハマる時もありましたし。**あなたの芸術愛、特に韓国の芸術愛は有名です。前回の＜ヴォーグ＞のインタビューでも「家に美術品をかけるのは霊的体験」と語っています。私に美術が初めて近づいてきた時は、2015年ハンガラム美術館で開かれたマーク･ロスコ(Mark Rothko)展示でした。 彼の赤い抽象画に吸い込まれそうでした。その作品を見て「私も色の絵を描きたい」と言った子供も覚えています。美術との強烈な初めての出会いを描写してください。**記憶は編集され続けるので正確ではありませんが、私が覚えているのはシカゴアートインスティテュートでモネとゴッホ、セラの絵に触れる時でした。おそらく2018年末頃だと思います。ツアー中だったんですが、「ミュージアムに行ってみよう」という思いで行ったのが強烈な体験になりました。教科書やパソコンでしか見たことのない絵を実際にマティエールまで接するようになると、「ああ、やっぱり直接行って見るのが正しいんだな」私は絵に素質が全くなくて、生まれて初めて見る大家たちの色彩感覚と作業物に驚嘆しながら夢中に見た記憶があります。特に「グランド･ザット島の日曜日の午後」がとても強烈でした。**あなたが訪れる展示、インスタグラムに認証した作品は当然話題です。それが負担になることもあり、良い展示を大衆に知らせたという満足感も感じられそうですが、いかがでしょうか？観覧した展示を大衆に紹介する特別な理由がありますか？**何度か話したことがありますが、それぞれインスタグラム、特にパブリックフィギュアのフィードは一種のキュレーションではないでしょうか。その人が何を追っているのか、何を表したいのかある程度如実に見せてくれると思います。あまりにも展示をたくさん行ってこちらのインフルエンサーとして紹介されているので負担になる面もなくはありませんが、「私に関心があったり、私が好きな方が一人でももっと良い体験ができれば…」という気持ちでポストを載せる方です。特に韓国近現代美術や古美術に対して私のような若い世代の関心が切実だと思います。**メディアアートやパフォーマンスの方よりは絵画、工芸に興味が高いように見えます。心がその方向に動く理由を考えてみましたか？**そうですね。どうしても普通メディアアートやパフォーマンスの方に動く過程がもっと面倒で難しいですよね？そして展示館に行って見るのも一種の体験なんですが、メディア

や映像は1時間ほどの重い分量が多くてどうしても少し大変に感じることもあります。しかし、だんだん美術が好きになり、そちらにもそれなりの観点ができるのではないかと思います。それでもペク・ナムジュンやイ・スンテク、シュタイアール、ブルース・ナウマンなどはとても興味深く見ました。パフォーマンスはどうしても直接目撃することが多くないせいか、映像では少し弱く感じます。私には展示に行くのも一種の趣味であり日常の換気ですが、絵画や工芸は見ながら自らマティエールとか、まつわる話とか、もう少し解釈と感想の余地が多いのではないかと思います。そして、もっときれいで簡単じゃないですか(笑)　これを否定してはいけませんね。**<知っておくと役立つ人間雑学>を見ながらもっと感じましたが、知識と知恵を吸収しようとする情熱が大きく見えます。普通社会生活を長くしたり一家を成すと「自分だけの基準」(こだわりに近い)ができるもので耳を閉じたりします。特にスーパースターならそうなりやすいと思います。だからあなたが心を開いて学ぼうとする態度が不思議ですごいです。知識と知恵を探求する理由は何ですか？最近耽溺する領域は？**50・60・70代でも相変わらず新しいことに開かれている方々を見ると畏敬の念から感じます。「情報過剰」の時代に30歳も若い年寄りになりがちな時代じゃないですか。私の欠陥や不足をきちんと知ろうと努力します。新しい体験や結果物に接する時、初めて聞く不快感やフレームに閉じ込められないように努力する方です。知的欲望は、私は当然だと思います。勉強は一生するものだと言うじゃないですか。世の中に私が知らないこと、興味深い分野が本当に多いです。美術史、美学、建築、世界史、韓国史などを通じてより賢い人になれると信じています。最近は写真と古美術に耽溺しています。**この前ファン・ソユン(So!YoON!)アルバムに一緒にした曲も良かったし、ソロアルバムでチェリーフィルターのチョ・ユジン、パク・ジユンと一緒にしたトラックも好きです。聞きながら「このアーティストは制限のない人だな、自由に見える」と思いました。どんなミュージシャンと一緒にしたいですか？**以前はそのような基準があったようですが、今はよくわかりません。ただどの位置に、どの程度の確信を持って立っていようが、何かに向かってさらに進もうとする人々。単純に欲望だけでなく、実現できる力量と才能を備えて道を探して迷う人が好きです。結局、私はそのような人たちからも自分の話を探しているのではないでしょうか？大家さんであれ、新人さんであれですね。**「現在を生きるのが夢」と言いました。このような夢を持つきっかけは何であり、「今ここ」に集中するためにどんな努力を傾けますか？**アートに長く接して音楽も長くやってきたので、結局永遠性に帰結するようです。ところがある瞬間、皮肉なことに永遠性に最も近づく方法は現在に深く食い込むことだと感じました。この時代は特に、あるいは韓国の社会環境のせいなのかは分かりませんが。私たちの精神的時制がいつも過去や未来に行っているじゃないですか。後悔したり、残念に思ったり、欲望したり、夢を見ることはすべて現在であり現在であるはずですが、精神がずっと他の時制に行っていると過ぎ去ったり来ないことだけに執着するようになります。一日に特に達成感や達成感がなくても、一日の終わりに今日あったことを思い出しながら「こんなにたくさんのことをして、たくさん考えたんだな」と慰めてくれます。そして良いことは始める前に残念がっていたり、悪いことを恐れたりするのを警戒しようとする方です。ルーチンがとても重要だと思います。最近は作業、お酒、展示、運動、散歩……こういうキーワードを柱のように立てておいて、横枝を伸ばして生きています。悪くないです。**「ウォラベルを重視して守られなければストレスを受ける」と言っていましたが。アーティストとして簡単ではありません。あなたが考えるワークライフバランスの意味は何ですか？**何度も言いますが、芸術も結局人生から出てくる自分のものです。「人生」と「遊び」が並行されてこそ、素敵な創作物も出てくるでしょう。「音楽のための音楽」「バイブのためのバイブ」などに埋められてはいけませんね。　ライフが先行して、それがワークを生み出せるようなバランス感というか。いつも平均台の上にいると思って生きています。それを楽しむしかありません。創作は天刑や刑罰のようなものですから。それでも楽しくて、このような職業人として生きることができて幸運です。**最近、キム・エランの短編「30」のフレーズをよく思い出します。「これまで私は何が変わったのか、ただ少しお金が多くなり、人を信じられず、物を見る目だけが高くなった、くだらない大人になってしまったのではないか。」RMは「より良い人」という方向性を繰り返し自覚すると思います。**より良い人になることはパッシブスキルのように持っていく人生の総体的キーワードではないでしょうか。いつもより良い人になりたいです。しかし、愛するという言葉自体より愛の内容がはるかに重要なように、まず「より良い人」に対する定義を持っていなければならないと思います。人によって違いますよね？申し上げたように、私は人生のキーワードを書いておいてバランス感覚を持つために努力し、また知らないことを勉強して、友達と一生懸命遊んで周りの人たちも気遣おうと思います。もっと良い人になるということは本当に難しいです。一生やらなければならないことですから。それで、そんな目標と心で長い間生きてきた人を見ると優雅だと感じるようです。彼らには何らかの後光のようなものが感じられませんか。そのように生きる人が多くなれば、もっと良い世の中になるのではないでしょうか？**最近やったことがないのですが、やってみてよかったことは何ですか？　それともやったことないけど、いつかは必ずやりたいことは？**最近は新しい人たちとぶつかって、友達になって、また作業もしてみています。人間関係を見ると、昨年半ばまでは狭く閉鎖的に生きてきたのではないかと思います。そんな刺激が大変で照れくさくて時には重いこともありますが、何か私の中で少しずつ変わっていくのが感じられます。私がこのバランスをうまく取れば、それを良い変化に導くことができますよね？『ヴォーグ』のカバーも私にとって大きな挑戦であり、新しい体験でした。機会をくださいまして、ありがとうございました。　元気でいてください。(VK)